

第6課「信仰を詳述する」

日曜日「このように、義とされたのだから」

信仰によって義とされることに付随する経験があります。口語訳の2節で「さらに」と続く部分に注目です。神の栄光にあずかる希望をもって喜ぶ。苦難から忍耐、練達、希望へと導かれる。聖霊によって神の愛が心に注がれる。（2－5節）

第一コリント13：13の「信仰、希望、愛」がここにも出てきています。

月曜日「人を求められる神」

神は人との和解のために第一歩を踏み出しました。8節と9節は神の「愛」と「怒り」に言及しています。どちらも神にとっては感情のレベルではないことに注意して読みましょう。神は血を流して愛を示して下さり、その血で人は神の怒りから救われます。私たち人間には感情じゃない「愛」、「怒り」は理解し尽くせませんが、身代わりになってまで人を求める神の強い思いが心を打ちます。

火曜日「死はのみ込まれた」

アダムによって罪が世に入り、罪によって死が入り込み、死はすべての人に及びました。この罪の結果を覆す唯一の解決策は身代わりの死を遂げ、甦ったイエスの救いです。家畜が伝染病にかかるとすべて殺処分されます。自分で自分を救えない現実が罪に支配された人間と似ています。誰一人自分で自分を救えないのですが、イエスは「死と陰府の鍵」を持っています。

水曜日「律法は必要を喚起する」

「律法がなければ罪は罪と認められない」。（13節）律法は鏡のように顔の汚れを見せますが、汚れを落とすのは水と石けんです。体温計のように熱がどれくらいかを示しますが、熱を下げるには薬を用います。律法は救い主の必要を悟らせ、神の恵みを受け入れるよう促します。

木曜日「第二のアダム」

アダムの罪によって、人は死ぬことになり、すべての人に有罪の判決が下された。一方でキリストは恵みの賜物を多くの人に与え、すべての人が義とされて命を得るようにした。罪のない環境においてアダムは罪の支配をもたらした。世に来て罪人に囲まれてイエスは、恵みの支配をもたらした。「恵みと義の賜物」（17節）は神から無償で与えられるものです。

今週は5章全体を学びましたが、ガイドの設問や文章と同様に、それ以上に聖書を注意深くじっくりと読んでみましょう。